

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業				担当部局庁	高等教育局	作成責任者	
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定)年度	令和11年度	担当課室	専門教育課	専門教育課長 梅原 弘史		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	・「経済財政運営と改革の基本方針2021」(令和3年6月18日) ・「統合イノベーション戦略2021」(令和3年6月18日) ・「成長戦略フォローアップ」(令和3年6月18日) ・「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和3年6月18日) ・「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」(令和3年6月18日) ・「AI戦略2021」(令和3年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議決定)			
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	教育振興助成費			
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-16.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	大学院の閉塞性・分野の壁を打破し、高度な専門的知識のみならず、数理・データサイエンス・AI分野のスキルや国際感覚を身に付けた、今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育モデルを構築。							
現状・課題 (5行程度以内)	「IT人材白書2020」においては、将来のIT関連市場の成長の見通しによって低位・中位・高位の3種のシナリオが設定され、中位のシナリオでは、2030年に約45万人のIT人材が不足すると試算されている(「IT人材白書」独立行政法人情報処理推進機構社会基盤センター)。医理工農学など自然科学系分野のみならず、経済学、経営学、公共政策、教育学、法学など人文社会科学系分野においても、より高度な数理・データサイエンス・AIの素養への需要が増加しており、「専門分野×データサイエンス」のような分野横断の知識・技術を習得した修士・博士を輩出する学位プログラムの創設は、Society 5.0やDXの実現のために喫緊の課題となっている。							
事業概要 (5行程度以内)	人文社会系等の研究科において、専門分野×データサイエンス・コンピューターサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育の推進により、アカデミック・ノンアカデミックにおいて国内外で活躍できるデジタルの素養を持ち合わせた人材を育成。							
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/x-pro/index.html							
実施方法	補助							
補助率等	定額補助 (交付要綱: https://www.mext.go.jp/content/000182040.pdf)							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	-	-	451	451	1,005	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	451	451	1,005		
	執行額(G)				447			
	執行率(%) =(G)/(F)		-	-	99%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		-	-	99%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		高等教育振興費		重要政策推進枠 600百万円			
		(目)	研究拠点形成費等補助金	450				1,005
		(目)	研究拠点形成等業務旅費	1				1
		(目)	研究拠点形成等委員等旅費	-				-
		(目)	研究拠点形成等業務庁費	-				-
			その他	0				▲ 1
	計(A)		451	1,005				

活動内容① (アクティビティ)		大学院において、データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のマイナー・ダブル学位プログラム等を設定し、人文社会系分野において、データサイエンス・コンピュータサイエンスの素養を持った人材を育成する取組を支援。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		今後の社会を牽引する高度人材の育成のための分野融合の体系的な大学院教育を構築	事業実施件数	活動実績	件	－	－	6	－	－
				当初見込み	件	－	－	6	6	18
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	効果発現の初期段階として、人文社会科学系等と情報系の複数分野の知識・技術を習得することができる学位プログラムを構築することにより、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を開始することができると考えられるため、短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 8 年度	
		教育プログラムの構築数	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの構築数	成果実績	件	－	－	－	－	
				目標値	件	－	－	－	20	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	教育プログラムの構築後、各大学において、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ人材の育成を実施することができると考えられるため、中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 9 年度	
		教育プログラムの履修者数	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育プログラムの履修者数	成果実績	人	－	－	－	－	
				目標値	人	－	－	－	175	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	本事業で構築した教育プログラムにおいて、数理・データサイエンス・AIの素養を持つ修了者が輩出されることで、課題となっているIT人材不足の解消につながると考えられるため、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 11 年度	
		構築した教育プログラムの修了者の輩出	専門分野×データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のダブルメジャーなどの大学院教育を修了した学生数(延べ人数)	成果実績	人	－	－	－	－	
				目標値	人	－	－	－	552	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		事業実施大学への状況調査(文部科学省調べ)等による								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名称																															
	URL																															
	該当箇所																															
事業所管部局による点検・改善																																
点検結果	本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2021」(令和3年6月18日閣議決定)等に掲げられた政策を実現するものとして、必要かつ適切なものであり、国が実施すべき事業である。令和4年度は、公募のうえ有識者からなる委員会による公平な審査を経て、事業を実施する6件の大学を採択し、各大学が事業に着手したところであり、現在、8教育プログラムの構築に向けて取り組んでおり、実現が期待される。経費の使途については、各大学に対して補助金交付要綱や公募要領で補助対象経費を明示・限定するとともに、交付申請書等により、内容が真に必要なものとなっているか確認のうえ執行している。																				目標年度における効果測定に関する評価(令和10年度実施)											
改善の方向性	本事業の実施に当たっては、毎年度の進捗状況・取組実績等を報告書により確認するとともに、中間評価及び事後評価を実施し、評価結果を踏まえた事業内容の改善・定着、成果の普及・発信を行うこととする。																															
外部有識者の所見																																
・短期アウトカムとして「教育プログラムの構築数」、長期アウトカムとして「構築した教育プログラムの修了者数」が設定されている。プログラムの修了までは一定の期間を要し、途中段階の成果として(短期アウトカムとして)「教育プログラムの登録者数、参加者数」、「教育プログラムの定員充足率」も設定し、丁寧に進捗を確認し、説明する必要があるのではないか。また、短期アウトカムについても、プログラムの構築数だけでなく「インターンシップの参加者数」等、多面的な成果を確認し、丁寧に説明することも考えられるのではないか。・長期アウトカムとして「構築した教育プログラムの修了者数」が設定されているが、本指標は中期アウトカムに相当すると考えられる。長期アウトカムは、本事業により構築された大学院教育モデルが全国に展開され、我が国においてデジタルの素養を持ち合わせた人材が増加する状況を示す指標(高度IT人材の数等)等が該当するのではないか。																																
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見																																
事業内容の一部改善	外部有識者の所見を踏まえ、現在設定されている短期アウトカムの他にも多面的に評価が可能となるよう複数のアウトカムの設定を検討すべきではないか。また設定された長期アウトカムは内容が中期アウトカムに相当するものから再度検討すべきである。																															
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況																																
執行等改善	外部有識者からの指摘を踏まえ、中期アウトカムとして「教育プログラムの履修者数」を新たに設定し、また長期アウトカムを「教育プログラムを修了者数(延べ人数)」に変更した。																															
過去に受けた指摘事項と対応状況	公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ																															
	上記への対応状況																															
	その他の指摘事項																															
	上記への対応状況																															
備考																																
-																																
関連する過去のレビューシートの事業番号																																
平成23年度	-																															
平成24年度	-																															
平成25年度	-																															
平成26年度	-																															
平成27年度	-																															
平成28年度	-																															
平成29年度	-																															
平成30年度	-																															
令和元年度																																
令和2年度																																
令和3年度	2021	文科		新22	0009																											
令和4年度	2022	文科		新22	0006																											

※令和4年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

文部科学省
447百万円

専門分野に応じた数理・データサイエンス・AIに関する知識・技術を習得し、人文社会科学系等と情報系の複数分野の要素を含む学位を取得することができる学位プログラムを構築する取組を支援

【補助金等交付】

A. 大学(全6機関)
420百万円

専門分野に応じた数理・データサイエンス・AIに関する知識・技術を習得し、人文社会科学系等と情報系の複数分野の要素を含む学位を取得することができる学位プログラムを構築する取組を支援

B. 独立行政法人日本学術振興会
27百万円

デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業の審査・評価、公表・普及等を実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品費	設備備品費、消耗品費	48	人件費・謝金	人件費、謝金	14
間接経費	光熱費等	16	その他	通信運搬費、会議費、諸経費	10
その他	外注費	4	旅費	旅費	2
人件費・謝金	人件費	2	物品費	消耗品費	1
計		70	計		27

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

